



Vol.158
令和5年度8月号

今年の伊豆沼のハスは昨年の大雨の影響で、まばらな状態です。一見、水面が緑に覆われていますが、これはヒシという植物です。

ハスの現状と今後

梅雨が明け、いよいよ夏本番を迎えた伊豆沼ですが、今年はハスの生育数が少ない状況です。これは、昨年の7月に起きた洪水によって、多くのハスが水没・枯死したためです。

2022年の洪水前までは伊豆沼の約60%を覆っていたハス群落は、洪水後には約11%まで減少したことが確認されています(右の図1、図2を参照)。

洪水の影響で昨年はほとんど見ることができなかったハスの花ですが、今年は伊豆沼北側の岸寄りを中心に、まとまった数を見ることができるようになりました。ここには水深の浅い水域が広がっており、そのような環境がハスの生育に適しているためと考えられます。

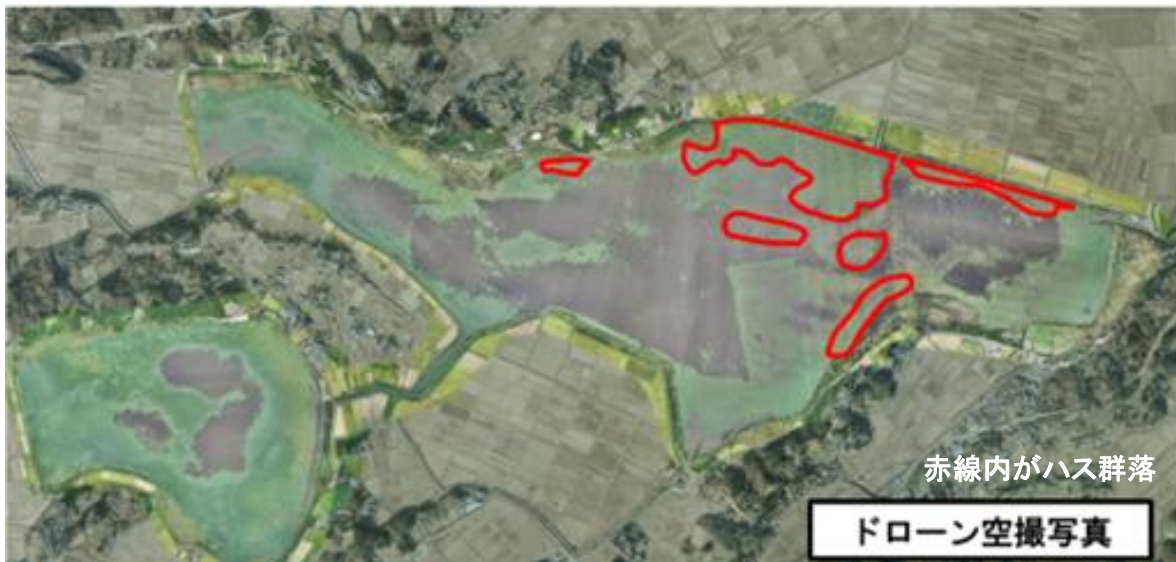
伊豆沼・内沼のハスは、生育適地を中心に回復途上のようなようです。



赤線内がハス群落

ドローン空撮写真

図1. 2021年のハス群落 (群落面積219ha, 伊豆沼全体の60%)



赤線内がハス群落

ドローン空撮写真

図2. 2022年のハス群落 (群落面積41ha, 伊豆沼全体の11%)



「トトンボ」
獲れた？

志波姫小学校のみさん

7月7日は、志波姫小学校2年生の皆さんが、水生植物園を訪れ、虫取り網を使った昆虫採集とタモ網を使った魚や水生昆虫の観察を行いました。虫取り網を手に、植物園に棲むトンボの採集を行い、獲れたトンボの種類を簡易図鑑で確認したりしていました。



一迫小学校のみなさん

7月14日には、一迫小学校4年生の皆さんが胴長を履いて伊豆沼に入り、三角網を使って沼の生き物を観察しました。胴長はほとんどの児童が初体験で、沼の中を歩くだけでも元気な声があがり、良い経験になったことと思います。

今回、伊豆沼の恵まれた自然環境にふれあうことで、普段の生活ではなかなか出来ない体験ができたと思います。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ウキゴリ～

ウキゴリは近年、伊豆沼・内沼に生息するようになってきたハゼ科の魚です。元々、北上川流域に広く生息する在来種で、オオクチバスが駆除により減少し、住みやすくなってきた伊豆沼・内沼に来て定着したのかもしれない。このように、水の中ではいろいろなことが起きていますので、モニタリングを継続して行っています。

全長5cmほどのウキゴリ



新職員紹介



業務補助員 白鳥 晃

伊豆沼・内沼の環境保全活動に、色々な生物に触れながら進めて行きたいと思います。

愛鳥週間原画コンクール

宮城県入賞作品展示案内

8月3日(木)から8月27(日)まで

公益財団法人 日本鳥類保護連盟が主催するコンクールで、全国の小・中・高校の児童・生徒を対象とし、製作過程を通じて野生鳥類についての保護思想を高めるとともに、愛鳥週間の普及啓発に努めることを目的としています。

くりはらマルシェ 第2弾 開催案内

8月5日(土)、8月11(金) 9:00-13:00まで

宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター敷地内に、栗原地域の農林水産物や地場産品が出展します。是非、お越し下さい。

